

- 女性泌尿器外来を開設
- 電子カルテに移行
- 小児科サマーキャンプを開催
- 救急部を移転
- 肝疾患相談支援センターを開設
- 病院給食 健康レシピ紹介
- D病棟に屋上庭園をオープン！

女性泌尿器外来を開設しました

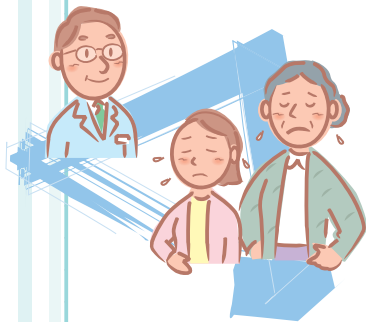
泌尿器科 准教授 荒木 勇雄

▶ 女性泌尿器外来について

当外来は、女性特有の疾患である「骨盤臓器脱」及び「腹圧性尿失禁」を専門的に治療する外来として、泌尿器科と女性診療科との合同で2010年7月に開設されました。いずれの疾患も、症状はあるものの受診をされていない潜在的な患者さんが多いことが知られています。当院ではメッシュ（シート）を用いた最新の治療を行っており、最近患者さんが急増しています。

是非、お気軽に
ご相談下さい。

荒木 勇雄



外来開設日	毎週金曜日午後（13:30～17:00）
対象疾患	骨盤臓器脱、腹圧性尿失禁 （※特に手術治療が適応となる重症例）
受診方法	完全予約制です。原則、他の医療機関からの紹介や当院一般外来からの予約が必要ですが、当面は電話での予約も受け付けています。
場 所	泌尿器科外来（TEL. 077-548-2567）

▶ 骨盤臓器脱について

「骨盤臓器脱」とは、膀胱や子宮、直腸といった臓器がだんだんと下がってしまい、やがて膣から外に出てしまう病気で、40歳代以降閉経とともに急速に増加します。

治療方法としては、膣内に器具を挿入して脱出を押さえ込む方法と手術療法があります。根本的な治療法は手術ですが、従来の手術法では重症の場合には再発率が高いことが問題でした。本院で行っている手術は、開腹することなく、膣から人工線維（ポリプロピレン）のできたメッシュを使って膣周囲の筋膜を補強する最新の手術法（TVM手術）で再発はほとんど認められません。また、子宮脱に対しても子宮を温存することが可能です。

▶ 腹圧性尿失禁について

「腹圧性尿失禁」は、尿道の支えが弱くなり、せきやくしゃみなどで急に腹部に力が入った時に尿が漏れる病気で、50歳代をピークにして幅広い年齢層の女性を悩ませます。

軽症では、理学療法や薬物療法が有効なことがあります。中等症以上では手術療法が適応となります。現在の主流は、お腹を開けることなく、膣を数センチ切開して人工線維（ポリプロピレン）のテープで尿道を支える中部尿道スリング手術です。30分程度の短時間で行える安全で簡便な手術で、治療率も90%以上です。本院では、より安全性の高まった最新のスリング手術（TOT手術）を行っています。